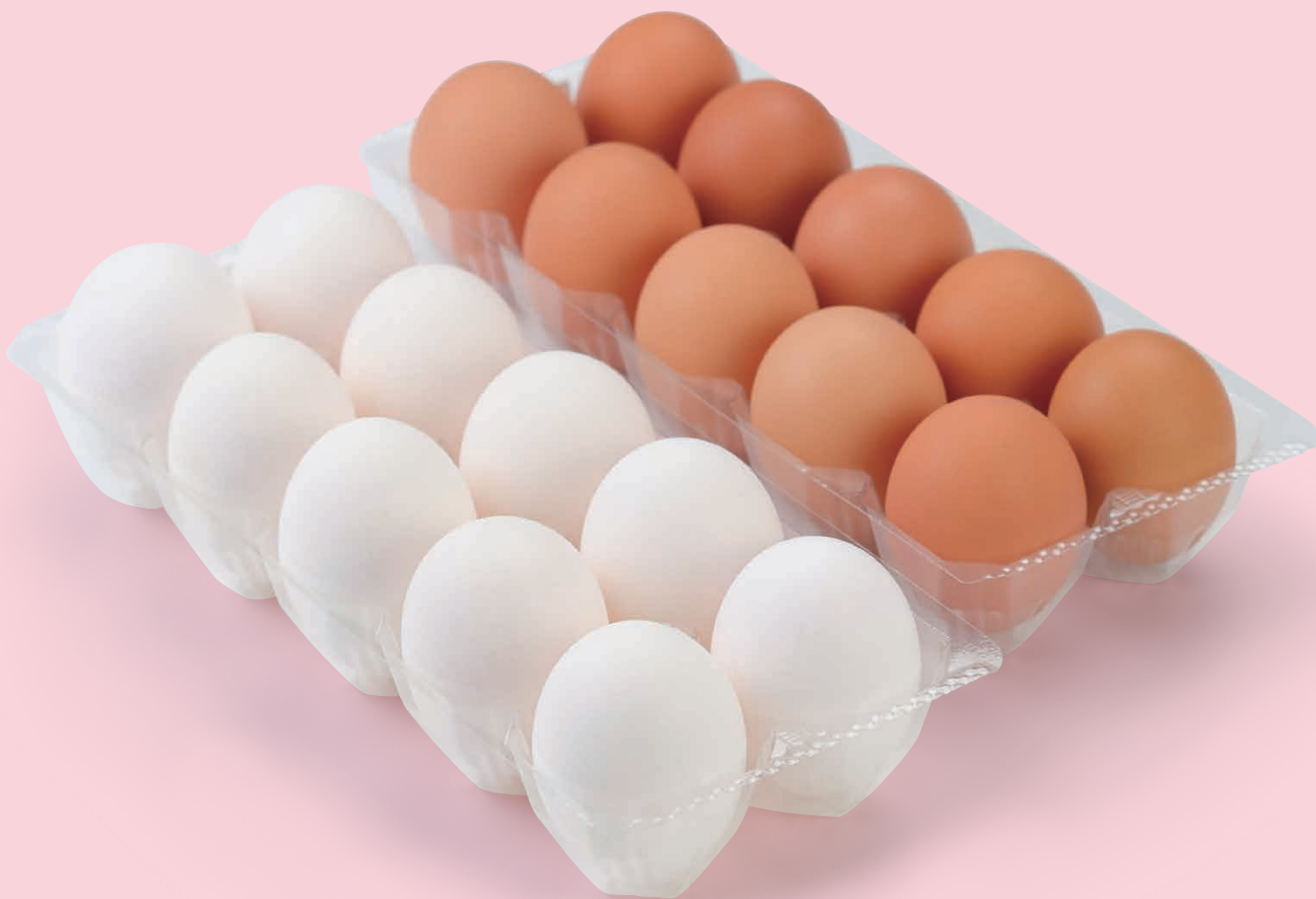


JA全農ウィークリー

J A Z E N - N O H W E E K L Y



2面

肥料資源フォーラムに
JAグループで共同出展
(畜産総合対策部・耕種資材部)

2面

エコ肥料「e・green」が
国土交通大臣賞
(福岡県本部)

Web版
JA全農ウィークリーは
こちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



肥料資源フォーラムにJAグループで共同出展

JAグループ一丸となった資源循環促進に向けて

畜産総合対策部・耕種資材部



共同ブースは関係者の情報交換の場となった

フォーラムは国内肥料資源の利用拡大に向けて、肥料取り扱い事業者の交流を図りマッチングを促進する国内初のイベントで、農水省補助事業を活用して開催されました。今回は6月の東京会場に次ぐ開催となり、国内肥料原料の供給者や肥料製造事業者、農業機械メーカー、肥料利用者ら総勢600人以上が一堂に会しました。

共同ブースでは、各地の



堆肥センターの生産・流通の見える化ウェブサイト「耕×畜なび」を展示

取り組みをポスターやモニターなどで展示。福岡県本部の「e・green」やJA宮崎経済連の「エコループ」など堆肥を混合した配合肥料も並び、来場者や出展者同士で意見交換を行いました。参加者は交流を通じて各取り組みの次のステップへの情報収集をする機会を得ました。今後ともJAグループ一体となって耕畜連携・資源循環を促進していきます。

全農は9月20日に熊本県で開催された「国内肥料資源の利用拡大に向けたマッチングフォーラムin九州」で熊本県のJA菊池、JA宮崎経済連、JA鹿児島県経済連、全農県本部（広島、福岡）、耕種資材部（中四国と九州の各事業所）、畜産総合対策部の計8の団体・部署と共同でブースを出展し、それぞれの取り組みをPRしました。

News!



エコ肥料「e・green」が国土交通大臣賞

福岡県本部が福岡市と下水道の再生リンで共同開発

福岡県本部

賞状を手にする乗富幸雄県本部運営委員会会長（右）と柳健二県本部長



「循環のみち下水道賞」は健全な水循環や、資源・エネルギー循環を創出することで社会に貢献した好事例を表彰するものです。

「e・green」は道路下水道局の処理施設で回収された再生リンとJAグループの堆肥を肥料原料として使用しています。今回の

福岡県本部と福岡市が共同で開発したエコ肥料「e・green（イーグリーン）」の取り組みが、2023年度国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」のイノベーション部門「部門賞」を受賞しました。

表彰は、県内資源を活用した肥料で農産物を生産・消費し、それらがまた市内下水道に戻ってくるという広域循環モデルが、創意工夫のある優れた取り組みであるとして評価されました。

今後も、県本部と福岡市は「e・green」を通じて、持続可能な農業や豊かな食生活につながる取り組みを推進していきます。



「e・green」包材イメージ



石川佳純さんを囲んで「感謝の会」

「全農オフィシャルアンバサダー」に就任

広報・調査部

「感謝の会」で役員と交流



就任式では、野口栄代表理事理事長から名刺型のパネルが手渡され、石川さんは「12年間、近くで応援いただき大変光栄でした。これからも日本の安全安心な食の魅力を伝えていきたい」と笑顔で今後の意気込みを述べました。

全農は10月10日、石川佳純さんとの新たなスタートとして「全農オフィシャルアンバサダー就任式」と、役員との交流イベント「感謝の会」をJAビル（東京都千代田区）で開催しました。

また、交流イベント「感謝の会」では安田忠孝代表理事専務から石川さんへ、役員からの感謝の思いが込められたお茶わん型のメッセージボードを贈呈しました。そのほか、石川さんが全農所属となってからの12年間を振り返るトークショーや職員が石川さんへ直接感謝を伝えるコーナーを通じて、役員との交流を楽しみました。

手渡し



今後、石川さんには「全農オフィシャルアンバサダー」として食と農の大切さや魅力の発信にご尽力いただきます。



エコープマーク品に菓子3商品

和菓子ミックス、玄米おこしミックス、芋ちっぷ新発売

くらし支援部



エコープ和菓子ミックス (225g、299円：税抜き)



エコープ玄米おこしミックス (80g、199円：税抜き)



エコープ芋ちっぷ (90g、199円：税抜き)

全農は、エコープマーク品菓子部門の新商品である3商品（エコープ和菓子ミックス、エコープ玄米おこしミックス、エコープ芋ちっぷ）を10月2日から全国で発売します。

エコープ和菓子ミックスは幅広い世代に楽しんでもらえるように、もなか、あずき草餅、抹茶ようかん、しぐれといった7種類

類の和菓子で構成したオリジナル商品です。また、エコープ玄米おこしミックスは、原材料は全て国産を使用し、1袋で黒糖と含蜜糖の2種の味を楽しめます。エコープ芋ちっぷは、国産のサツマイモを使用し、程よい甘さでサツマイモ本来の味わいをお楽しみいただけます。

エコープマーク品は「国産原材料優先使用」をコンセプトの一つに掲げており、国産農畜産物の消費拡大に貢献できるような商品開発に取り組んでいます。使用原材料や味、品質全てにこだわった新商品をぜひお試しください。

News!

こども食堂にJA 嬭恋村高原キャベツ贈る

物産展「ぐんま直送便」の売上金とともに寄贈式

群馬県本部



黒岩常務理事(左)と、こども食堂ネットワークぐんま丸茂代表

群馬県本部とJA 嬭恋村は9月16〜18日、さいたま市のイオンモール浦和美園店で開催された物産展「ぐんま直送便」でJA 嬭恋村高原キャベツを販売しました。3日間で販売した2万4000円の売上金と高原キャベツ50ケースをこども食堂ネットワークぐんまに贈りました。

JAの黒岩忠春常務理事は「新鮮でおいしいキャベツを食べてたくさんの子供たちに笑顔になってもらえれば幸いです」と話し、こども食堂ネットワークぐんまの丸茂ひろみ代表へ目録を手渡しました。

丸茂代表からは黒岩常務理事へ感謝状が手渡され、「みずみずしく新鮮なキャベツを子どもたちに提供し、子どもたちの笑顔とこども食堂運営のために活用していきます」と感謝の言葉をいただきました。贈られた高原キャベツは県内のこども食堂で提供されます。



物産展でキャベツを販売するJA 嬭恋村の霜田隆部長(奥左から2人目)と黒岩正信課長(同左)ら

News!

香港・台湾向けの桃輸出が好調

害虫検査を徹底、食味や外観など高い評価

山形県本部



輸出向け桃の出荷作業を行う県本部とJAさくらんぼひがしねの職員

山形県本部は8、9月に東根市産「川中島白桃」や「黄金桃」などを香港と台湾へ輸出しました。現地での評価も高まっており、香港への輸出量は前年比7割増となる約16トン、台湾へは前回(2021年)と比べて2割増の1593キロとなりました。

台湾への輸出は検疫条件が厳しく、害虫検査を徹底する必要があります。出荷時には県本部とJAさくらんぼひがしねの職員が、ほこりや虫などをコンプレッサーの風圧で取り除き、一玉一玉を丁寧に検品し、箱詰めを行いました。

現地では県産桃の食味や外観など品質の良さが評価され、中秋節向けのギフトや高級百貨店での販売向けに高い需要があります。県本部では、コロナ禍が収束に向かい始めた22年以降、輸出拡大に向けて本所や輸出業者との連携を強化したほか、現地の百貨店やスーパーでフェアやキャンペーンを積極的に開催してきました。

10月末からは西洋梨「ラフランス」やリンゴの取り扱いが始まっています。今後、もさらなる事業拡大に向け、現地のバイヤーへ県産農産物の魅力をPRしていきます。



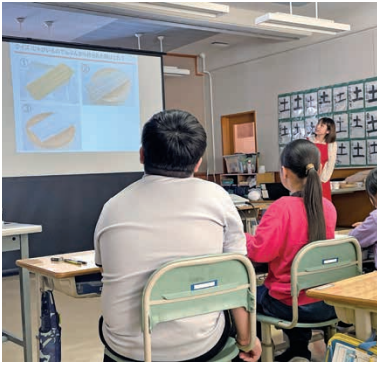
一玉一玉を丁寧に検品する職員ら

News!

北海道の小学生にでんぷんの食育授業

ジャガイモが「マロニーちゃん」になるまでを学ぶ

麦類農産部



馬鈴しょでんぷんについて教えた食育授業

今後、元気な産地づくりに向けた取り組みを応援していきます。

給食では、「マロニーちゃん」が入った担々スープが提供されるなど、食育授業を通じて児童に馬鈴しょでんぷんという地域産業に愛着を持ってもらう機会をつくることができました。

授業では、ジャガイモ（馬鈴しょ）の生産やでんぷんの製造、馬鈴しょでんぷんが主原料の「でんぷん麺」「マロニーちゃん」の製造工程などを説明。児童は地元で生産されたジャガイモが形を変え、身近な食品になるまでを学びました。

全農は9月22日、マロニー（株）と北海道のJA中札内村、南十勝農産加工農業協同組合連合会、ホクレンと共同で中札内小学校の児童たちを対象に食育授業を実施しました。

News!

親子14組が秋の田んぼの生きもの調査

神奈川県で生きもの調査を実施 稲刈りも体験

広報・調査部



田んぼで生きもの調査をする子ども

手刈りとコンバインそれぞれの方法で稲の収穫も体験しました。参加者からは「とても貴重な体験ができた」「また参加してみたい」という声が集まりました。

田んぼに集まった参加者は、講師の合図のもと生きものを採し、二ホンアマガエルや赤トンボなど23種を見つけ、講師からこれらの生きものを育む田んぼの役割や地域のお米を食べることの意義を教わりました。

全農は10月14日、神奈川県伊勢原市で「JA全農プレゼンツ2023」稲刈り体験と秋の田んぼの生きもの調査を実施しました。14組45人の親子が参加し、田んぼの生きもの調査を通じて田んぼの多面的機能や生物多様性について学びました。

News!

スタートアップ21社と農業WEEKに出展

直売所向け電子看板「JAサイネージ」も展示し好評

AgVentureLab



報道陣の質問に答えるあくぐらボ開発チーム

アクセラ伴走者の農林中金・全農職員もブース内で来場者の質問に対応し、活発に交流しました。また、あくぐらボが独自開発した直売所向け電子看板「JAサイネージ」も展示し、直売所や店舗での利用に向け多くの問い合わせを頂きました。

ブース内では、JAアクセラレータープログラムや農林水産省の農業支援サービス事業インキュベーション緊急対策サービス事業者スタートアップ支援で採択したスタートアップ企業21社が、展示・セミナーを行いました。

AgVentureLab（あくぐらボ）は、10月11～13日に千葉市の幕張メッセで開催された「第13回農業WEEK」に出展しました。

全農グループ販売7社が広報連携プロジェクト

公式X「国産たくさん」フォロワー1万人超す
(旧ツイッター)

謎の生物「わんさら」が国産の魅力を発信

全農および全農グループ販売7社は2022年に広報担当のネットワーク形成と、7社で連携した広報施策の実施を目的とした「全農グループ販売7社広報連携合同プロジェクト」を発足しました。

【広報・調査部】

 全国農協食品株式会社		こばちわわ
 全農 パルライス 株式会社		おちやわん
 JA全農青果センター株式会社		さらだっくす
 全農 JA全農ミートフーズ株式会社		どんぶる
 全農チキンフーズ株式会社		ばすけっとはうんど
 JA全農たまご株式会社		ここといぶー
 協同乳業株式会社		まぐしば

プロジェクトでは、販売7社の連携強化と広報活動による企業価値・イメージの向上に向けて各社の広報施策や課題の共有を行い、課題解決に向けた検討・協議などを行っています。担当者からは「コラボ企画などがしやすくなった」「同じような課題を抱えている会社の取り組みが参考になった」などの声が寄せられています。

23年6月からは販売7社合同の公式X(旧ツイッター)アカウント「国産たくさん」を開設。10月までにフォロワーは1万人以上になりました。

開設までにプロジェクトメンバーで会議を重ね、ア

カウントのテーマ・コンセプト、ターゲットやトーン＆マナーの設定など、開設後の運営をスムーズに進めるための準備を行ってきました。投稿では、「国産たく

国産たくさん [全農グループ販売7社合同アカウント] @kokusanokouan

今日の担当は #まぐしば
2023年の中秋の名月は9月29日なんだまぐ

お月見といえは団子が多いけど今年は少し趣向を買って農協牛乳を使ったミルク餅のお月見もおすすのまぐ

農協牛乳/片栗粉/砂糖/きな粉だけでできるレシピをみんなにも試してほしいんだまぐ〜



協同乳業の季節のイベントに合わせた投稿

国産たくさん #JA全農たまご

たまごの「真身の色」が違うのはなんでだろー？
A) 卵の種類
B) 卵の鮮度
C) 卵の産地
正解は、画像をチェックだろー！！



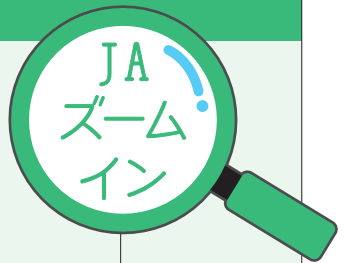
さん村」に住む食器でも犬でもない謎の生物「わんさら」たちのイラストを用いて、「食」に関するお役立ち情報や国産食材をいしく食べるレシピなどを紹介しています。各社の広報担当者が日々試行錯誤しながら、季節のイベントに合わせたレシピ提案や意外と知られていない食材の豆知識など消費者に楽しんでもらえるような投稿作成に取り組んでいます。

今後もアカウントの運営を通じて販売7社の連携を強め、国産食材の魅力発信と全農グループの企業価値向上に取り組んでいきます。



販売7社合同アカウント
「国産たくさん」はこちら





施設整備しブロッコリー拡大

特産大豆の加工品4品も好調

JA鳥取中央 (鳥取県)



概要		2023年1月31日現在
正組合員数		1万429人
准組合員数		1万811人
職員数		480人
販売品取扱高		169億円
購買品取扱高		36億円
貯金残高		1593億円
長期共済保有高		4689億円
主な農畜産物		スイカ、梨、白ネギ、ラッキョウ、ブロッコリー、米

JA鳥取中央は「シン・地方創生総合戦略」を打ち出し自己改革を実践する



目合わせ会でブロッコリーの出荷規格をしっかりと確認

ため具体的な方針を決めています。その一つにブロッコリー生産拡大プランがあります。

選果場に製氷機増設 労力削減、販路広がる

同JAの琴浦ブロッコリー生産部では2011



自動で発泡スチロールに氷詰め

年から製氷機を導入しており、安定した品質で出荷しています。死花※などのロスがなくなり、信頼できる商品としてブランド力を上げ、19年には目標としていた販売金額4億円を突破しました。

23年3月には生産拡大に



製氷機のお披露目式

伴う出荷量増大を受け、選果場に製氷機を3台増設。

発泡スチロールへの氷詰め作業を機械化したことにより労力削減、作業効率向上を実現しました。また1畝当たりの氷を増量させることで、より遠くへ出荷できるようにになり、販路拡大や有利販売につながっています。

今年の秋冬作からは部員が43戸増えて141戸になりました。秋冬作は177畝で栽培し9月下旬からの出荷で4億950万円、年間では5億4600万円の販売を見込んでいます。

大豆シリーズが人気 地元米も使いみそ発売

みさちまよ 三朝町の特産品「三朝神倉大豆」は、納豆「神のつぶ」

や水煮「神のつぼみ」、あんに大豆を使ったたら焼き「神の笑み」など「神の○○」シリーズを4種類展開しています。三朝神倉大豆はタンパク質とイソフラボンの含有量が非常に高く甘みが強いのが特長で、人気商品です。11月には6年ぶりに、新商品としてみそ「神の蔵」を発売。同町産米「きぬむすめ」も使用し、地大豆の甘みのあるまるやかな風味が特長です。商品はJA直売所をメインに、山陰地方のスーパで販売する予定です。



新商品のみそ「神の蔵」

※ 花蕾表面にある花芽が黄変・褐変したもの

ファミマとコラボ商品「ドライ和梨」新発売

千葉県産原料で「ファミマル」「ニッポンエール」Wブランド

全農は、(株)ファミリーマートとの商品開発の一環として、同社の商品ブランドである「ファミマル」と全農の「ニッポンエール」とのWブランド商品「ドライ和梨」を、11月6日から販売します。【営業開発部・千葉県本部・全国農協食品(株)】

「ドライ和梨」は、千葉県本部から原料供給された和梨を使用し、製造しています。素材のおいしさを生かしたドライフルーツで、豊

かな甘みと香り、爽やかな味わいが楽しめます。

生果としては流通できない和梨を、加工用として活用することで、生産者の所得向上に貢献したいという思いで開発しました。

今後も、ファミリーマートと連携し、特徴のある原材料を使用した商品開発を通じて、国産農畜産物の訴求と販売拡大に取り組みしていきます。



千葉県産和梨を使用した「ドライ和梨」

特別栽培米「京式部」の拡大へ新商品 ホワイトチョコランチ「京のお米しょこら」販売開始

京都府本部は、2021年に発売を開始した特別栽培米「京式部」の販売拡大に取り組んでおり、今回「京式部」が原料の米パフ※を使用したホワイトチョコランチ「京のお米しょこら」を発売しました。【京都府本部】

10月1日より京都駅の土産店2店舗で京式部「京のお米しょこら」を発売しました。京都らしい平安時代の正装「十二単」をイメージしたパッケージでお土産や土産に最適です。「京のお米しょこら」をきっかけに、京都駅を訪れる全国の方に「京式部」をPRしていきます。

※米を高圧加熱し膨化させたもの



ホワイトチョコランチ「京のお米しょこら」

- 商品名
京式部「京のお米しょこら」
- 販売店舗
おみやげ街道京店、おみやげ街道JR京都駅中央口店
- 販売価格(税込み)
8個入り734円、16個入り1382円、24個入り1998円

JA全農の産地直送通販サイト
JAタウン ショップ紹介

サトクル(株) 農協観光

もつ、鶏つくね、スープ、ラーメンがセットになったもつ鍋セットです。キャベツやニラなどの野菜や豆腐をご用意していただくと、お手軽にもつ鍋を味わうことができます。

鍋のメインとなるもつ肉は北海道産牛小腸100%、鶏軟骨つくねは北海道産鶏肉と国産豚肉を使用しました。スープは創業以来伝統の味を守る旭川醤油をベースにし、しめの麺はスープと相性抜群の旭川ラーメン。牛小腸のうまみとつくねから染み出るだし、地元旭川の老舗のしょうゆが絡み合った絶品のもつ鍋をお楽しみください。



もつ鍋ギフトセット 旭川醤油(2人前×2食入り)……3615円(税込み)



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

『JA全農トピックス』の公式 X(旧Twitter)はこちら

私たち全農グループは、生産者と消費者を 安心して結ぶ懸け橋になります。